

平成21年度全国学力・学習状況調査の結果について

【調査概要】

- 平成21年4月21日実施、8月27日結果提供・公表(今年度で3回目)
- 小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒が対象(約235万人が調査に参加)
- 対象教科は国語、算数・数学(児童生徒と学校に対する質問紙調査も実施)
- 「知識」と「活用」(知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力など)に関する問題を出題

【結果概要】

教科に関する調査の結果

- ◎ 「知識」は平均正答率が概ね70%台(小学校:国語・算数、中学校:国語)であるが、一部課題がある。
(中学校:数学は60%台)
 - ◎ 「活用」は平均正答率が概ね50%台(小学校:国語・算数、中学校:数学)であり、全般的に課題がある。
(中学校:国語は70%台)
- ・ 大都市、中核市、その他の市ごとの状況については、大きな差はみられない。
 - ・ 都道府県のばらつきは小さいが一部の都道府県に差がみられた。
(ほとんどが平均正答率の±5%以内)

質問紙調査の結果(児童生徒)

- ◎ 関心・意欲・態度については、多くの点について改善傾向が見られる。
 - ・ 算数・数学の勉強が好きな小中学生の割合は平成13・15年度に比べると増加している。
 - ・ 朝食を食べている小中学生の割合は毎年増加傾向にある。
 - ・ 携帯電話をもたない小中学生の割合は前年度よりやや増加
- ◎ 学習に対する関心・意欲・態度、宿題、読書、基本的な生活習慣等で肯定的な解答をした小中学生ほど正答率が高い傾向

質問紙調査の結果(学校)

- ◎ 全国学力・学習状況調査の分析・活用、国語・算数・数学の宿題をよく与える、PTAや地域の人々の参加等、学力向上のための取組が増加
- ◎ 学力低位層の割合が減少した学校では、学習規律の維持の徹底や、国語の宿題を与えている学校の割合が増加している。
- ◎ 自分で調べたことや考えを分かりやすく文章で書かせる指導、書く習慣を身に付ける指導(国語)、実生活との関連を図った指導(算数・数学)を重視している学校、PTAや地域の人々が参加している割合が高い学校等の方が平均正答率が高い。